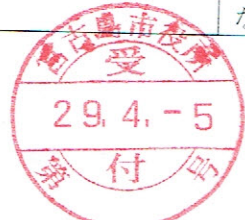


小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO 法人いけま福祉 支援センター	代表者	前泊 博美	法人・ 事業所 の特徴	池間島の出身者を中心に島おこし活動を行う当法人は、高齢者支援のひとつとして、小規模多機能介護事業所きゅーぬふから舎を運営している。きゅーぬふから舎は、島で暮らす要介護高齢者の介護、生きがいづくりや看取りまで、生活をまるごと支える実践を心掛け、島の人々による手作りの介護を展開している。
事業所名	きゅーぬふから舎	管理者	坂東 瑠美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	1人	1人	1人	人	2人	1人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	今、日々やっていること、関わり合いを大切に、地域の人たちとのコミュニケーションを楽しみながら、よりよい地域での生活継続のために今年度あげたそれぞれの自己評価の目標を取り組んでいく。	利用者、地域の人たちの声を拾う努力を全体で意識し、多くの情報をひろいながら、9つのそれぞれの目標に対しスタッフ全体で取り組み、次の課題を見出しながら日々歩んでいる。	具体的になっている、記録化が課題のようであり、皆で取り組むにはよいと思う。地域の特徴が強くてしているので課題もほかの事業所と違いがあり、地域の皆さんと共に取り組んできているのは活かししてほしい。	前回と同様、スタッフ一人ひとりの振り返りと皆での話し合いに労力はかかるが、前向きに受け止め、スタッフ一人ひとりの学びと事業所としての共有の学びの場として年度の中間で自己評価に取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	今まで同様、まずは池間島の方々が入りやすいように心がける。橋を渡りここを利用や訪問したい場ができるかは島外からの来訪者と利用者にしつらえや環境に対しての意見を聞いていく。	あまり意見を意識して聞くことはできなかったが、色々な多くの人との出入りがあった。島外の高齢者の出入りは少ないが、池間島の方々や島外からくる方たちは日常的に出入りをしている。	島では若い女性（職員）が多く集まっている場所でもあり、来なくなる。人が集うセンターのエントランスに集まっているというのが、逆にいいのかもしれない。対象に合わせて、これまで同様工夫をしていってほしい。	利用者の希望や状況に応じて、集う利用者とスタッフ、地域の人たちと共に意見交換をしながら、居心地の良い空間づくりの工夫を日々していく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域行事の参加をさらに促進するため、時間帯を常に検討してもらえるよう働きかけや積極的な職員の参加をしていく。池間島の課題解決のために事業所をみなで築いてきており目の前・足元の課題が大きく、まずは今の利用者やその支援者たちと課題解決に努める。どの地域の人でも相談があれば、分け隔てなく今まで通りに真摯に対応していく。	池間外の地区のニーズを知るまでには至らなかった。池間島の課題解決で精一杯であり、利用者や支援者たちと課題解決には努めており、問い合わせや相談には真摯に対応してきている。	目の前の池間島を一生懸命なのはよくわかる、できればこのような良い取り組みを平良北部にも広めてもらいたい。出られない人にもスタッフは、行ってくれる。ここは、人が来られ集える環境がある。行くだけではなく、いろんな人、特に地元の人が帰島したら寄ってくれる。懐かしいビデオなども流れており、外に出た人もつないでくれている。	地域の関わりにより、この事業所は成立できているが、遠慮し合ってしまう事もみられるので、老人クラブや地区組織の集会に出向き、この事業所の役割の提示 PR し、当事業所と地区組織を活用した応援団づくりと要介護状態となっても暮らし良い地域づくりへ協働をしていく。



D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域交流の中で育まれている事業所、地域と共有をしていながら歩いていく。高齢化が進行し年齢を積み重ねるごとにも行事の参加形態が変わっていくので、それに合わせた支援が必要であり、その話し合いもしながら、行事の参加希望に応じて支援できるよう皆で協力していく。	地域なくしては事業所運営はできず、情報交換や助け合いをしながら利用者支援が成り立っている。特に小中学校生徒の力も借りて、子どもたちとの交流によりお互いに喜び悲しみ合いながら日常的に関わることができた。行事については、地域の方々の協力のもと参加ができている。	別に出会えば集まっていつもこういう風に話し合いをよく持っている、よく話をしている。イベントにも参加して、ご近所も含めてみんなでやっている。行事の練習も含めて日々関わり合っており浸み込んでしまっている事業所、行事に合わせて会議も多い。池間以外はできていない。	地域交流の中で育まれている事業所なので、引き続きその強みを活かし、情報共有をしながら地域と共に歩いていく。行事の参加については、高齢者の皆さんが引き継ぎ守り抜いてきている伝統文化・行事を中心にできるだけこれまでと同様、ご本人・家族・関係者と助け合い参加できるように支援していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議では、事業所の自己評価・地域評価とサービス評価を中心にした取り組みをしていく。	6回開催できた。委員が全員揃うことはできなかった。この評価に取り組むことで精一杯であったが、サービス評価を中心として取り組むことができていく。	池間には毎月開催し、ほとんどこの会議の構成メンバーが参加している島おこしの会がある。これまでの積み重ねでできた会なので、発展がある。地域と一緒に地域を考えていることは素晴らしいので、運営推進会議に他地域の人も入れ、地域を広めていけたらいい。	前年度より運営推進会議にサービス評価が組み込まれ、今年度はその評価を中心とした取り組みとその評価のための会議をもつので精一杯だったため、来年度もサービス評価を中心とした会議を継続する。もう少しスムーズな会議運営と評価のための委員の皆さまの参加協力をいただき、もう少しじっくりと今後の事業所の在り方も含めて意見をいただき取り組みに活かしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	事業所も地域の一員であり、事業所として地域と共に集まって作り上げてきている防災マップを完成させるために率先して働きかけ、具体的に考えてきていることを地域の誰がどこまでやるかを決めていく。	防災センターが完成したが、まだ活用に関して、管理者とそれを活用する島民との意識の差があり、誰がどこまで地域の防災を行うかがもめてしまい、協同での防災マップが中断して完成しなかった。事業所の防災計画は作成し、それに市や地域の助言を受け確認することはできた。	島の自衛の防災の取り組みに派生していく必要がある。それを含めて島全体と、利用者中心とに分けた防災計画をしたらよい。地域の防災訓練時も中心となって参加している。地域と協働していけたらいい。地区の消防団員もスタッフが担っているの、それも含めて考えないといけない。要介護4、5の方が利用者で多く、状況によりどのように助け合いを持っていくか、常に訓練と共に考え合いながら対策を練っていく。	運営推進会議とこの外部評価を活かしながら、事業所の防災計画と地域の防災計画とをすり合わせる。利用者・職員と地域の方々の助け合いをもちながら、避難訓練を実施していく。